



# ユーザーガイド

バージョン6



LAUNCHKEY

# Contents

<b>はじめに.....</b>	<b>5</b>
主な特徴 .....	5
同梱物 .....	6
使用を開始する.....	6
トラブルシューティングおよびサポート .....	7
各モデル機能表.....	7
セミウェイトドキーボード (Launchkey 88のみ) .....	7
各部の名称と概説.....	8
接続する .....	10
Launchkeyをコンピュータに接続する.....	10
Launchkeyを外部MIDI対応機器に接続する.....	10
<b>Ableton Liveとの連携.....</b>	<b>11</b>
インストール .....	11
セットアップ.....	11
セッションモード.....	13
クリップのローンチ .....	15
シーンのローンチ.....	16
Stop, Solo, Mute (停止、ソロ、ミュート) .....	16
録音.....	17
Capture MIDI.....	17
Quantise.....	17
Click .....	18
Undo.....	18
Arm/Select (アーム/選択) (Launchkey 49/61/88のみ) .....	18
ドラムモード - ドラムの演奏と録音.....	18
Ableton Liveのミキサーを使用する.....	19
ノブ .....	19
フェーダー (Launchkey 49/61/88のみ) .....	20
デバイスモード - デバイスの移動とコントロール .....	21
Device Select.....	22
Device Lock .....	22
トランスポート機能.....	23

<b>Cubaseとの連携</b> .....	<b>24</b>
セットアップ.....	24
ノブモードとフェーダーモード (49/61/88鍵盤).....	25
デバイスモード.....	25
ボリュームモード.....	25
パンモード.....	25
センド (センドA/センドB).....	25
パッドモード.....	26
セッションモード.....	26
フェーダーボタン (Launchkey 49/61/88のみ).....	27
セレクトモード.....	27
アームモード.....	27
トランスポートコントロール.....	28
トラック ◀▶ ボタン.....	28
>パッド (シーンローンチ).....	28
<b>スタンドアロン機能</b> .....	<b>29</b>
グリッド.....	29
ドラムモード.....	29
スケールコードモード.....	29
ユーザコードモード.....	31
固定コード.....	32
スケールモード.....	34
カスタムモード.....	35
パッド.....	35
ノブ.....	36
フェーダー (Launchkey 49/61/88のみ).....	36
アルペジエーター.....	36
アルペジエーターのノブによるコントロール.....	37
アルペジオモード.....	38
アルペジオレート.....	39
アルペジオリズム.....	40
ラッチ.....	40
アルペジオコントロールロック.....	41
Octaveボタン.....	41
設定.....	42
ポットピックアップ.....	42
ナビゲーションモード - ([...] ボタン).....	43
ストラムモード.....	43
ストラムモードでのアルペジオコントロール.....	44

<b>その他のDAWとの連携</b> .....	<b>45</b>
Logic.....	45
セットアップ.....	45
セッションモード.....	46
ノブ.....	48
フェーダー (Launchkey 49/61/88のみ).....	49
Arm/Select (アーム/選択) (Launchkey 49/61/88のみ).....	49
トランスポート機能.....	50
ナビゲーション.....	50
Reason.....	51
セットアップ.....	51
トランスポートコントロール.....	51
ロータリーノブ.....	52
パッドのセッションモード.....	52
ナビゲーション.....	52
プリセットのブラウズ.....	52
HUIとの連携 (Pro Tools、Cubase、Studio Oneなど).....	53
セットアップ.....	53
Pro Tools.....	53
Studio One.....	<b>53</b>
パッドのセッションモード.....	53
ナビゲーション.....	53
ミキサーのコントロール.....	53
フェーダーおよびフェーダーボタン (Launchkey 49/61/88のみ).....	54
フェーダーは常に、選択されているトラックのバンクのトラック音量をコントロールします。.....	54
トランスポートボタン.....	54
HUIと一緒に使用することで、トランスポートボタンが以下のように機能します。.....	54
<b>本体の特徴</b> .....	<b>55</b>
重量および寸法.....	55
<b>カスタムモードおよびComponents</b> .....	<b>55</b>

# はじめに

Novations Launchkey [MK3]は、Ableton LiveやSteinberg Cubaseのワークフローと完全統合し、直感的な操作が可能なMIDIキーボードコントローラーです。音楽制作や演奏に必要なものをすべて備えており、あらゆるジャンルのクリエイターの要望に対応します。Launchkeyは、音楽制作において新たな可能性を広げてくれる素晴らしいツールです。

Capture MIDI (キャプチャMIDI)、トラックアーム、クオンタイズ、クリック、ループコントロールなど実に多くのAbleton Liveの機能に本体からアクセスできます。Ableton Liveを使用していない方もご安心ください。Launchkeyは、CubaseやLogic、Reasonとも完全統合され、Studio OneやPro Toolsといった他のDAWともHUIを介してすぐに操作が可能です。

さらに、スケールモードやコードモード、ストラムモード、パワフルなアルペジエーターなど感性を刺激する機能が搭載されており、これらを組み合わせることで音楽の可能性を広げ、新しい方法で曲作りが可能になります。スケールモードは、演奏した鍵盤やパッドを、選択したスケール内のノートにトランスポートします。コードモードは、1本の指で複雑なコードをトリガーでき、アルペジエーターはメロディーに動きを与えます。

Launchkeyは、スタンドアロンでも使用できます。フルサイズの5ピンMIDI出力に対応し、あらゆるMIDIデバイスに接続可能です。またNovation Componentsを使うことで、ファームウェアの更新やカスタムモードの設定ができます。最新の機能をお使いいただくため、Launchkeyを購入したらまずファームウェアを更新することをお勧めします。

## 主な特徴

- Ableton Live用に設計：必要なコントロール部に即座にアクセス可能。
- その他のDAWにも対応：Cubase、Logic、Reasonとの完全統合。Studio One、Pro Tools、その他のDAWとも、HUIを介してただちに連携します。
- 制作から演奏まで：25/37/49/61/88鍵盤はベロシティセンシティブに対応し、16のパッドはベロシティセンシティブ対応かつRGBバックライトを搭載。
- 音作りに最適：8つのロータリーエンコーダーと9本のフェーダー (Launchkey 49/61/88のみ) を使って、インストゥルメントやエフェクトを微調整可能。
- 鍵盤にスケールを自動マッピング：音を外さず演奏可能。
- 豊かな想像力を発揮：3つのコードモードを利用すれば1本の指でコードをトリガーでき、高性能なアルペジエーターがメロディーにさらなる動きを与えます。
- トランスポートおよびミキサーコントロール：再生、録音、パン、ミュート、センドを直接操作。
- ハードウェアに接続：5ピンMIDI出力があらゆるMIDI対応デバイスと連携。
- あらゆるMIDIデバイスをコントロール：Novation Componentsを利用すれば、自身のパフォーマンスやスタジオ機材に合わせたカスタムのマッピングを設定可能。
- 直ちに楽曲を制作：Ableton Live Lite、バーチャルインストゥルメント、エフェクトプラグイン、サンプルパックが付属。

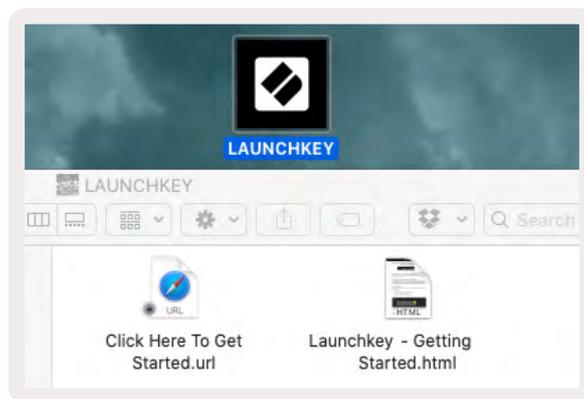
## 同梱物

- Launchkey 25／37／49／61／88本体
- USB Type-A - Type-Bケーブル (1.5メートル)
- 安全上の注意

## 使用を開始する

イーゲースタートツールは、手順に沿ってLaunchkeyをセットアップできるオンラインツールです。製品登録やバンドルソフトウェアのダウンロードなども行えます。

Launchkeyをコンピュータに接続すると、本体がUSBドライブのような大容量記憶装置 (MSD) として表示されます。ドライブを開き、「Click Here to Get Started.url」をダブルクリックすると、ウェブブラウザ上でイーゲースタートツールが開きます。



NovationウェブサイトではLaunchkeyを登録することでも、ソフトウェアバンドルにアクセスが可能です。

### PLEASE LOG IN

Your email address

Your password

**LOG IN**

[Forgotten Password?](#)

**WHY DO YOU NEED TO LOGIN AND REGISTER YOUR PRODUCT?**

- Access any free software and activation codes that come with your product
- Ensure you have the latest drivers, software and firmware
- Receive information about software, driver and firmware updates
- Control your contact preferences

**DON'T HAVE AN ACCOUNT?**

**CREATE AN ACCOUNT**

**REGISTER YOUR PRODUCT**

# トラブルシューティングおよびサポート

Launchkeyの使用方法については、以下をご参照ください。

[novationmusic.com/get-started](https://novationmusic.com/get-started)

Launchkeyに関するご質問やご相談は、ヘルプセンターをご利用ください。

以下のURLからサポートチームにお問い合わせいただけます。

[support.novationmusic.com](https://support.novationmusic.com)

## 各モデル機能表

Launchkeyには、25/37/49/61/88鍵盤の5種類がラインナップされています。下記は、モデルの比較表になります。また、モデルごとに異なる機能については本ガイド全体を通して解説されています。

モデル	Launchkey 25	Launchkey 37	Launchkey 49	Launchkey 61	Launchkey 88
ベロシティセンシティブ 鍵盤	25	37	49	61	88
フェーダー	-	-	9	9	9
フェーダー/トラックボタン	-	-	9	9	9
Arm/ Selectボタン	-	-	✓	✓	✓
セミウェイテッドキー ベッド	-	-	-	-	✓

### セミウェイテッドキーベッド (Launchkey 88のみ)

Launchkey 88には、ピアノのような弾き心地を実現するセミウェイテッドキーボードが搭載されています。88の鍵盤すべてがベロシティセンシティブに対応し、演奏に合わせて4つのベロシティカーブを選択できます。-詳細は、ページ「設定」をご参照ください42。

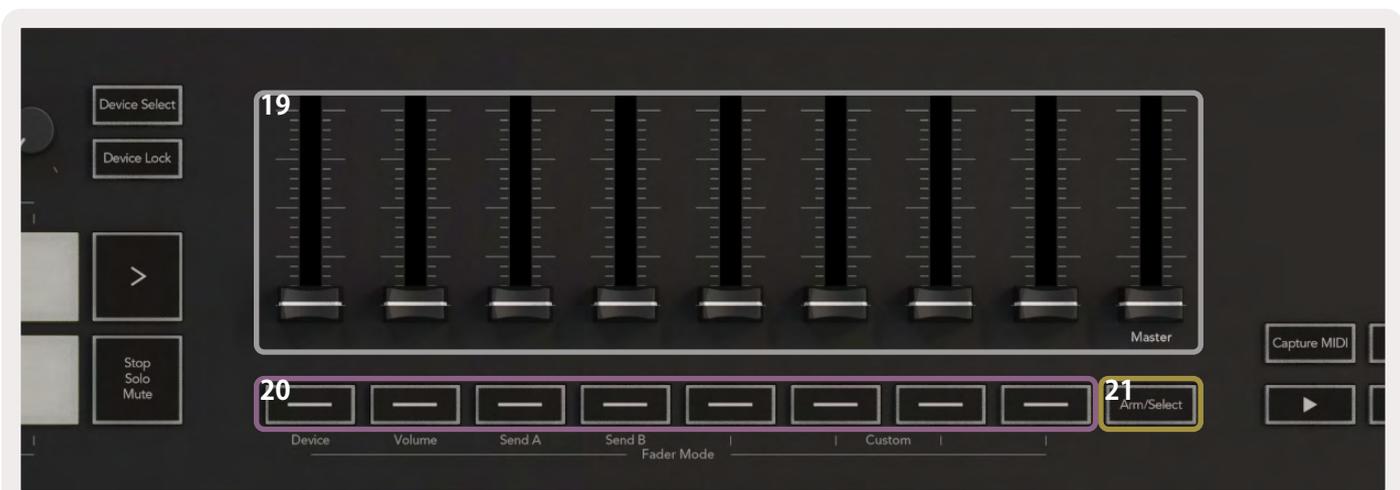
## 各部の名称と概説



1	LCDディスプレイ	デバイスの状態とパラメータ値が表示され、メニュー内を移動できます。
2	Shiftボタン	ハードウェア上にグレーの文字で記載されている二次機能へのアクセスを有効にします。
3	Settingsボタン	画面上で設定メニューを開きます。設定項目の詳細は、ページ「設定」42をご参照ください。
4	▲▼ボタン	パッドの列を上下に移動させます。Live内のクリップやドラムラック、コードなどに使用します。
5	トラック ◀ ▶ ボタン	DAW内のトラックを移動します。
6	... ボタン(ナビゲーションモード)	[...] ボタンを押すと、Launchkeyが便利なナビゲーションモードに切り替わり、サンプルやプリセットをブラウズできます。詳細は、ページ「ナビゲーションモード - ([...] ボタン)」<?>をご参照ください。
7	Fixed Chordボタン	指1本で演奏するコードを保存します。詳細は、ページ「固定コード」32をご参照ください。
8	Arpボタン	Launchkeyの内蔵アルペジエーターのオンオフを切り替えます。長押しすると、ノブとパッドのアルペジオコントロールがオンの状態にロックされます。
9	Scaleボタン	スケールモードのオンオフを切り替えます。詳細は、ページ「スケールモード」34をご参照ください。
10	Octave - + ボタン	キーボードが8オクターブ (C-2からC5) の範囲で上下にトランスポーズします。両方のボタンを押すとトランスポーズが0にリセットされます。
11	ピッチホイール	演奏中のノートのピッチを変化させます。
12	モジュレーションホイール	ソフトウェア／ハードウェアのパラメータにモジュレーションを適用します。



13	ノブ	8つのモード(デバイス、ボリューム、パン、センド、4つのカスタムモード)を使って様々なパラメータをコントロールします。また、最初の5つのノブは二次機能としてArpパラメータをコントロールします。
14	パッド	Ableton Live内のクリップをトリガーし、ドラムラックを演奏するには、セッションおよびドラムモードを使用します。カスタムMIDIメッセージの送信には、4つのカスタムモードを使用します。スケールコードおよびユーザーコードモードでは、コードをトリガーできます。
15	Device Select	パッドを使用してAbleton Liveでコントロールしたいデバイスを選択します。
16	Device Lock	他のトラックに移動した際にも、ノブで選択しているAbleton Live内のデバイスコントロールをロックします。
17	> ボタン(シーンローンチ)	Ableton Liveの一系列内のクリップを一気にローンチします。
18	Stop/ Solo/ Muteボタン	下の列のパッドを、トラックのStop、Solo、Muteボタンに切り替えます。



19	フェーダー (Launchkey 49/61/88のみ)	8つのモード(デバイス、ボリューム、センドA、センドB、4つのカスタムモード)を使って様々なパラメータをコントロールします。9番目のフェーダーは、DAW内のマスターボリュームをコントロールします (HUIを除く)。
20	フェーダーボタン (49/61/88鍵盤モデルのみ)	8つのモード(デバイス、ボリューム、センドA、センドB、4つのカスタムモード)を使って様々なパラメータをコントロールします。
21	Arm/ Selectボタン (49/61/88鍵盤モデルのみ)	DAWのフェーダーボタンの機能を変更することで、トラックの選択と録音アームが行えます。

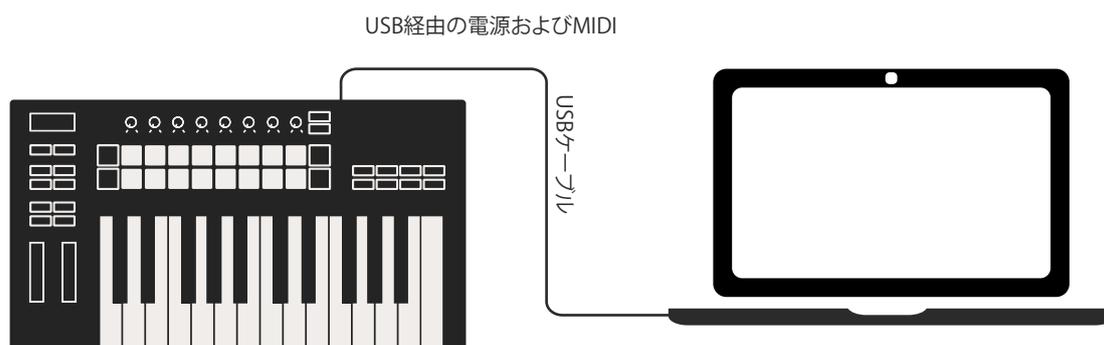


22	<b>Capture MIDI</b>	直前に演奏されたMIDIノートをDAW内に取り込みます (Live/Cubase/Logic対応)。
23	<b>Quantise</b>	Live、Cubase、Logicのクオンタイズ機能を実行し、ノートをグリッドに吸着させます。
24	<b>Click</b>	Live、Cubase、Logicのメトロノームのオンオフを切り替えます。
25	<b>Undo</b>	Live、Cubase、Logicのアンドゥ機能を実行します。
26	<b>再生、録音、停止、ループ</b>	DAWのトランスポートをコントロールします。

## 接続する

### Launchkeyをコンピュータに接続する

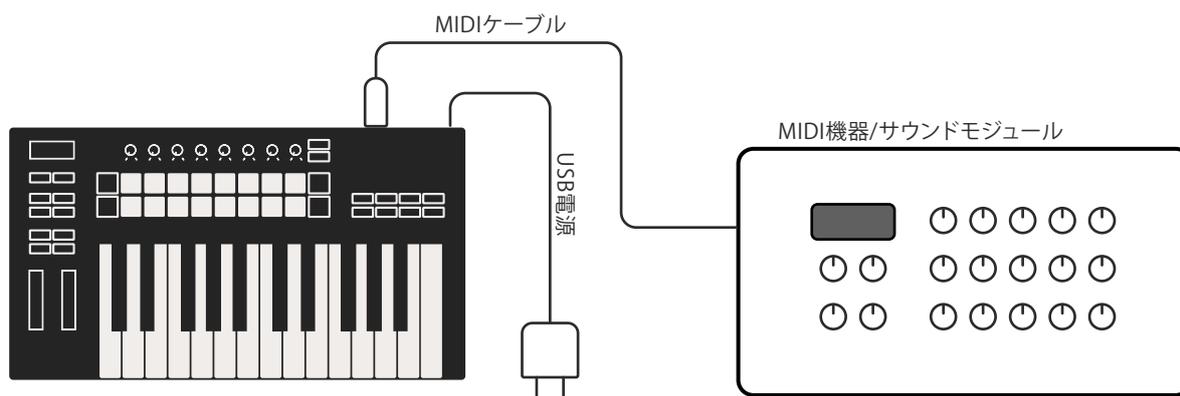
LaunchkeyはUSBバスパワー対応のため、USBケーブルでコンピュータに接続するとすぐに本体の電源が入ります。Launchkeyを初めて接続するときは、[Components](#)でインストールされているファームウェアが最新版であることをご確認ください。これにより最新の機能をすべてご利用いただけます。



注意: LaunchkeyをMacに接続すると、キーボード設定アシスタントが表示されることがあります。これは、ナビゲートモードを有効にするためにLaunchkeyがコンピュータのキーボードデバイスとしての機能を有するからです。キーボード設定アシスタントが表示された場合は、閉じてしまって構いません。

### Launchkeyを外部MIDI対応機器に接続する

コンピューターを使わずにLaunchkeyの5ピンDINソケットをMIDI出力として使用する場合は、標準のUSB電源 (5V DC、最小500mA) で電源供給することができます。



# Ableton Liveとの連携

Launchkeyは、Ableton Liveと完全統合しシームレスに連動するように設計されています。難しい設定を行うことなく高度な音楽制作とパフォーマンスが可能です。さらに **カスタムモード** を使用すれば、必要に応じた設定変更が可能です。Ableton Liveに関するLaunchkeyの機能については、以下で詳しく説明します。

## インストール

すでにAbleton Liveをお持ちの場合は、Liveを開いてLaunchkeyを接続するだけで準備は完了です。Ableton Liveをお持ちではない場合は、[novationmusic.com/register](https://novationmusic.com/register)でLaunchkey製品を登録し、付属のAbleton Live Liteをダウンロードしてインストールしてください。Ableton Liveを初めて使用する場合は、Novationのイージースタートツール ([使用を開始するを参照](#)) をご利用ください。インストールやLiveの基本機能、Launchkeyで音楽制作を始める方法などをビデオで説明しています。

## セットアップ

Ableton Liveをインストールしたら、LaunchkeyをMacまたはWindowsのUSBポートに接続します。Liveを開くとLaunchkeyが自動的に検出され**セッションモード**に切り替わります。

Launchkey本体のShiftボタンを押すと、パッドが下図のように点灯します。上の列のパッド(青)で上部ノブの動作または「モード」を選択し、下の列のパッド(緑)でパッドの動作またはモードを選択します。赤く点灯するパッドは、そのモード(ボリューム)がフェーダーに割り当てられていることを示します(49/61/88鍵盤モデルのみ)。



パッドの点灯が上図と異なる場合は、Ableton Liveのコントロールサーフェスの環境設定を確認する必要があります。この設定は、Ableton Liveの環境設定メニューにある「Link Tempo MIDI」タブで行います。

**Windows:** オプション (Options) > 環境設定 (Preferences) > Link Tempo MIDI

**Mac:** Live > 環境設定 (Preferences) > Link Tempo MIDI

ウインドウ構成はAbleton Liveのバージョンによって異なりますが、MIDI設定の画面はどのバージョンでも下図の様に表示されます。



「Link Tempo MIDI」タブで、上図の通り設定を行います。「コントロールサーフェス」メニューで、「Launchkey MK3」を選択します。「入力」および「出力」項目で、以下を選択します。

入力 - Macの場合: Launchkey MK3 [...] (LKMK3 DAW OUT)、Windowsの場合: MIDIIN2 (LKMK3 MIDI)

出力 - Macの場合: Launchkey MK3 [...] (LKMK3 DAW IN)、Windowsの場合: MIDIOUT2 (LKMK3 MIDI)

「トラック」、「同期」、「リモート」も、上図の通り設定します。「MPE」は、Launchkeyでは使用しません。

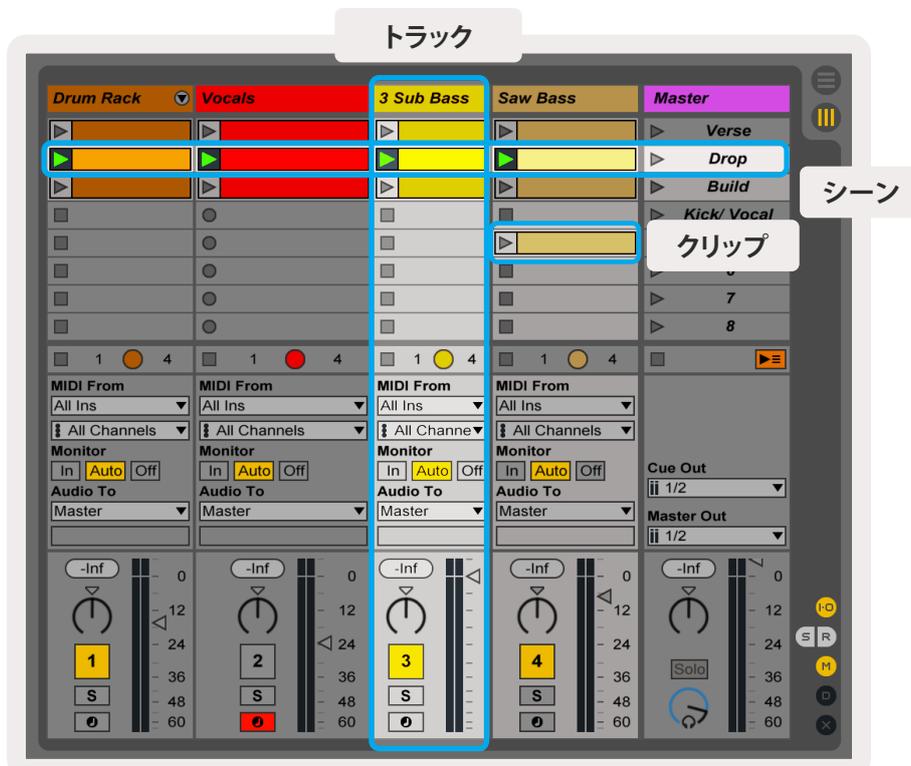
LaunchkeyとAbleton Liveの連携がうまくいかない場合は、イージースタートツール内の解説ビデオをご確認ください。

# セッションモード

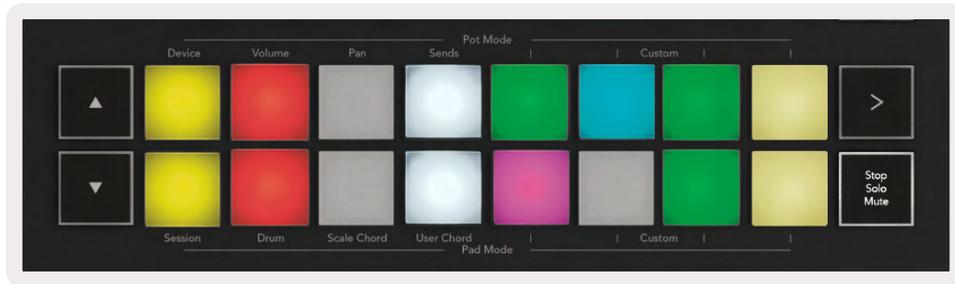
セッションモードは、Ableton Liveのセッションビューをコントロールします。Launchkeyのセッションモードにアクセスするには、Shiftを押さえたまま [Session] パッド(左下のパッド)を押します。[Session] パッドが明るく点灯します。



セッションビューはクリップ、トラック、シーンで構成されたグリッドです(下図参照)。



Launchkeyのセッションモードでは、セッションビュー内のクリップが8x2のグリッドで表示されます。下図はセッションモードでのLaunchkeyのパッドの例です。



**クリップ**とは、基本的にMIDIノートやオーディオ音源を含むループを示します。



**トラック**は、バーチャルインストゥルメントやオーディオトラックを示し、インストゥルメント・トラックに配置されたMIDIクリップは、そのトラックに割り当てられたインストゥルメントを再生します。



**シーン**はクリップの横一列を示します。シーンをローンチ (再生) すると、その列に含まれている全てのクリップが再生されます。つまり、横一列 (各トラックをまたいで) にクリップを配置することでグループが形成され、シーンを上から順に再生していくことで曲が構成されます。



Launchkeyのセッションモードにアクセスするには、Shiftを押さえたまま [Session] パッド (左下のパッド) を押します。

セッションモードでは、Ableton Liveのセッションビュー上で色のついた枠で示されるエリア内のクリップがパッド上に示されます。下図では、左端のトラックからマスタートラックまでがオレンジの長方形の枠で示されています。



Ableton Liveでクリップの配置や色を変更すると、Launchkeyのセッションモードに反映されます。点灯していないパッドは、そのクリップスロットが空であることを意味します。



▲▼ボタンとトラック◀▶ボタンを押すことで、セッションビュー内を移動できます。



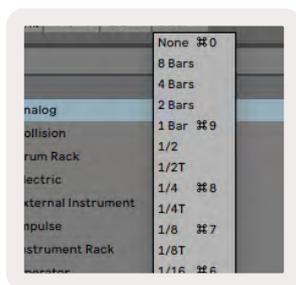
選択中のクリップのグリッドエリア (Ableton Live内の色の付いた長方形の枠) を上下に移動させることができ、▲ボタンではクリップのグリッドを1列上に、▼ボタンでは1列下に移動できます。

トラック ◀▶ ボタンは、左右に隣接するトラックを選択します。選択されたトラックは自動的にアームされ、MIDIの受信ができるようになります。

## クリップのローンチ

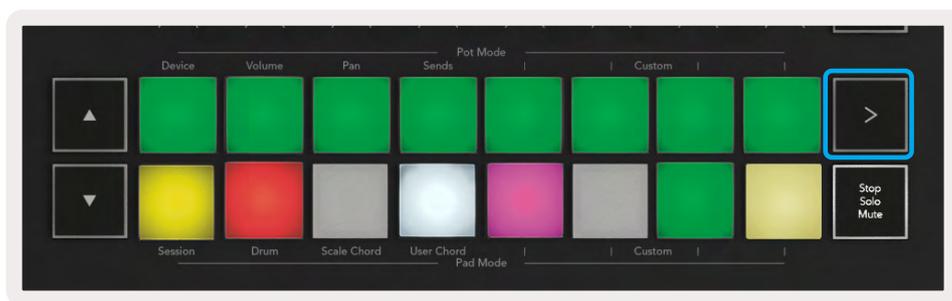
パッドを押すと、セッションビュー内の対応するクリップが再生されます。その際パッドが緑に点滅し、そのクリップが再生中であることを示します。パッドをもう一度押すと再度クリップが再生され、空のパッドを押すとそのトラックの再生が停止します。

クリップの停止や再度再生するまでのタイミングは、Ableton Live画面上部のクオンタイズメニューで設定できます。デフォルトでは1小節に設定されていますが、32分音符のように素早く反応させることも、8小節のように遅く反応させることも可能です。「None」を選択すると、再生クリップは即座に変更されます。



## シーンのローンチ

シーンローンチボタン (>) を押すと、Ableton Live内のシーンが再生されます。つまり、パッド上列のクリップ全てが一度に再生されます。

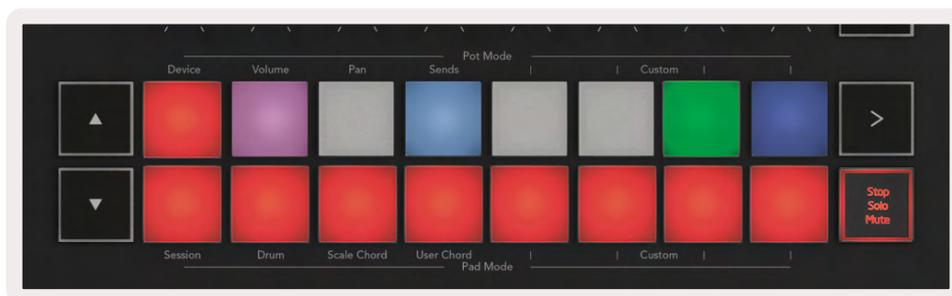


## Stop, Solo, Mute (停止、ソロ、ミュート)

セッションモードでは、[Stop Solo Mute] パッドを押すことで下の列の8つのパッドの機能を変更できます。この場合クリップは再生されなくなります。

[Stop Solo Mute] パッドを使うと、各トラックのステータスを以下の方法で切り替えることができます。

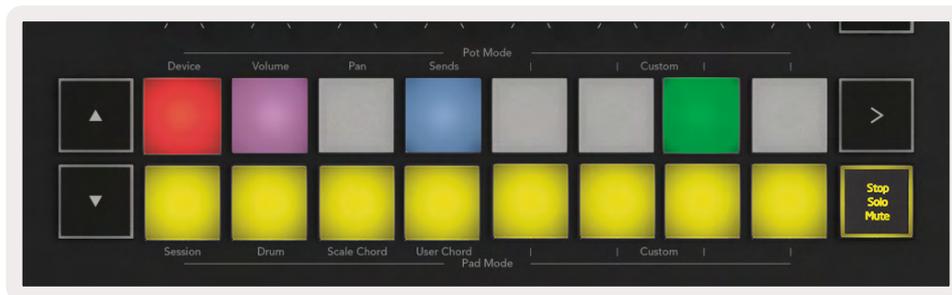
**停止(赤)** - 下の列のパッドを押すと、該当するトラック内のクリップが停止します。トラックが再生されていない場合、赤いパッドが暗く点灯します。



**ソロ(青)** - 下の列のパッドを押すと、該当するトラックがソロになり、そのトラックのみが再生されます。ソロになっていないトラック(無音)のパッドは暗く点灯し、ソロにしたトラックは明るい青に点灯します。



**ミュート(黄色)** – 下の列のパッドを押すと、該当するトラックがミュートになります。ミュートになったトラックのパッドは暗く点灯し、ミュートになっていないトラックのパッドは、元の明るさと色のまま点灯します。



**クリップ(マルチカラー)** – (停止、ソロ、ミュートに切り替え後)4回押すと、下のパッドの機能がデフォルトのセッションモードに戻り、パッドの下の列が再びクリップを示します。



## 録音

セッションモード中にこのボタンを押すと、セッションの録音が始まります。これにより、演奏中のものを新しいクリップに録音したり、既存のクリップにオーバーダブしたりすることができます。

## Capture MIDI

このボタンを押すことで、キャプチャMIDI機能がトリガーされます。録音アームされたトラックで直前に演奏したMIDIノートを、遡って呼び戻すことができる機能です。録音していない状態で演奏をした場合にも、[Capture MIDI] (キャプチャMIDI) ボタンを使えば演奏データをクリップに読み込むことができます。

## Quantise

このボタンを押すことで、選択中のトラックで有効なクリップ内のMIDIノートにクオンタイズをかけられます。これにより、MIDIノートがグリッドにスナップされ、拍に合わせることができます。

## Click

Abletonのメトロノームのオンオフを切り替えます。

## Undo

アンドゥ機能をトリガーします。

## Arm/Select (アーム/選択) (Launchkey 49/61/88のみ)

[Arm/Select] ボタン(下図の赤い枠で示されているボタン)は、8つのフェーダーボタン(下図の青い枠で示されているボタン群)の機能を、トラックの録音アームのオンオフまたはトラック選択に切り替えます。録音アームを設定した場合、トラックの録音アームが有効なトラック下のボタンが赤く点灯し、無効なトラックは薄暗い赤に点灯します。点灯していないボタンは、フェーダーにトラックが関連付けられていないことを示します。



トラック選択に設定した場合、ボタンの色がLive内のトラック色と一致します。フェーダーボタン(青く囲まれているボタン群)を押すと、そのトラックが選択されます。

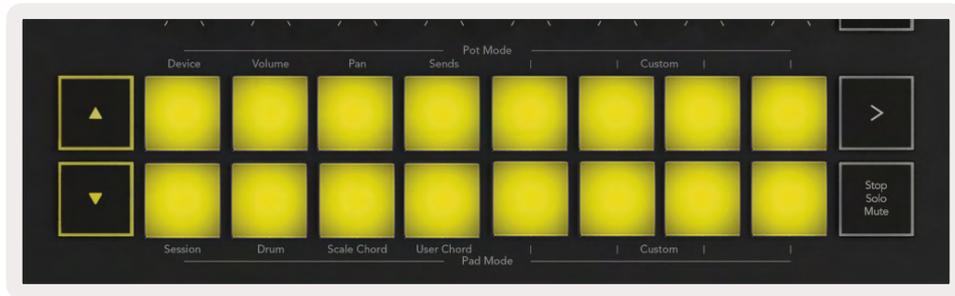


## ドラムモード - ドラムの演奏と録音

Shiftボタンを押さえたまま [Drum] パッド(下の列左から2番目)を押すと、ドラムモードに切り替わります。ドラムモードでは、Launchkeyのパッドがベロシティセンシティブなドラムパッドに変化します。



Launchkeyがドラムモードの際に選択中のLiveトラックにドラムラックが読み込まれると、パッドがそのトラックの色で点灯し、パッドを演奏すると緑色に点灯します。これらのパッドは、コンピュータ画面に表示されているドラムラックのパッドを演奏します。▲▼ボタンを押すと、ドラムラック内128パッドから構成されるバンクを上下にスクロールし、押すたびに16バンク分ラックが上下に移動します。



Abletonのドラムラックを使用している際、ドラムモードでは(サウンドのトリガーとは別に)ドラムラック内の関連するドラムラックパッドが選択されます。つまり、パッドから指を離れた際に直前に演奏されたドラムラックのパッドが白く点灯し、Ableton Live画面上でそのドラムラックのパッドが選択されている状態となります。

## Ableton Liveのミキサーを使用する

8つのノブと8本のフェーダー(49/61/88鍵盤モデルのみ)を使えば、Ableton Liveのミキサーをハンズオンでコントロールできます。プロジェクト内のトラックの音量、パン、センドA、センドBレベルをコントロール可能です。

### ノブ

8つのノブを回すことで、Ableton Liveのミキサーコンポーネントをコントロールします。Launchkeyは、ノブの回し始めに生じるパラメータ値の予期せぬジャンプを防ぐ「ポットピックアップ」機能を備えています。Live内のパラメーター値に達したときのみ、ノブによるコントロールが開始される機能です。たとえば、パラメータがLiveで「0」に設定されている場合、このパラメーターをコントロールするためには、該当するノブを左いっぱい回す必要があります(この機能はLiveの環境設定(preferences)で無効にできます)。

LaunchkeyがAbleton Liveに接続中は、ノブは自動的にデバイスモードとなります。ノブをLiveのミキサー(ボリューム、パン、センド)に割り当てるには、Shiftボタンを押しながら上の列の目的のパッド(Volume、Pan、Sends)を押します。



**Volume (ボリューム)** - このモードでは、ノブを使ってトラックの音量をコントロールします。Shiftボタンを押さ

えたまま [Volume] パッドを押すことでこのモードを選択できます。

**Pan (パン)** - このモードでは、ノブを使ってトラックパンの値をコントロールします。Shiftボタンを押さえたまま [Pan] パッドを押すことでこのモードを選択できます。

**Sends (センド)** - このモードでは、ノブを使ってトラックセンドの値をコントロールします。Shiftボタンを押さえたまま [Sends] パッドを押すことでこのモードを選択できます。1回押すとノブがセンドAに、2回押すとセンドBに割り当てられます。

注意:ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。フェーダーにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのパッドが赤く点灯します。この状態でパッドを押してもノブをそのモードに割り当てることはできません。

## フェーダー (Launchkey 49/61/88のみ)

9本のフェーダーを使って、Ableton Liveミキサーのパラメータを直接コントロールできます。Shiftボタン(下図の赤い枠で囲まれたボタン)を押さえたまま各フェーダーボタン(下図の青く囲まれた部分)を押すことでこれらのモードを選択できます。

LaunchkeyがLiveに接続されている場合、デフォルトでフェーダーがボリュームモードになります。このモードでは、最初の8本のフェーダーでAbletonのトラック音量をコントロールします。9番目のフェーダーは、モードに関わらず常にマスター音量をコントロールします。フェーダーでセンドA、センドBのレベルをコントロールすることも可能です。



注意:ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。フェーダーにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのパッドが赤く点灯します。この状態でこれらのパッドを押してもノブをそのモードに割り当てることはできません。

## デバイスモード - デバイスの移動とコントロール

デバイスモードでは、Live内のトラックのデバイス（Ableton内蔵またはサードパーティ製のインストゥルメントおよびエフェクト）をコントロールします。LaunchkeyがLiveに接続されると、現在操作しているLive内のトラックで使用している一つ目のデバイスにLaunchkyのノブが自動的に同期されます。

フェーダーをデバイスのコントロールに割り当てることもできます（49/61/88鍵盤モデルのみ）。これを設定するには、ノブがデバイスモードになっていないことを確認し（ノブとフェーダーにモードを同時に割り当てることはできません）、Shiftを押しながら最初のフェーダーボタンを押します。デバイスのコントロールをノブに再び割り当てるには、Shiftボタンを押しながら上の列の1つ目のパッドを押します。



エフェクトまたはインストゥルメントトラックがトラックに含まれる場合は、フェーダーまたはノブは最初のトラックの8つのマクロコントロールに割り当てられます。下図は「Percussion 1」という名称のインストゥルメントトラックのプリセットです。この例では、サンプルボリューム、ストレッチ、開始時間、ディレイやリバースエフェクトのDry/Wet値など、様々な重要なパラメータをLaunchkeyの8つのノブがコントロールします。



トラックにラックが含まれていない場合、一つ目のデバイスの選択された8つのパラメータにデバイスモードが同期します。トラック内の複数のデバイス間の移動は、「[デバイスの選択](#) / [Device Lock \(デバイスロック\)](#)」をご参照ください。

## Device Select

[Device Select] ボタンでは、トラック内のデバイス間を移動します。ボタンを長押しすることでアクセスでき、ドラムパッドと ▲▼ 矢印ボタンがピンク色に点灯します。



▲▼矢印ボタンでデバイス内を移動します。▲ ボタンでは左に移動し▼ ボタンでは右に移動します。パッドを使って、コントロールを行うページを選択できます。画面には、選択しているデバイスと、コントロール中のパラメータが表示されます。



## Device Lock

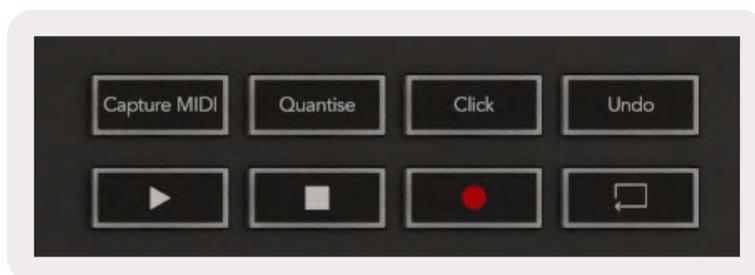
[Device Lock] ボタンは、選択中のトラックを変更した場合にも、選択中のデバイスとコントロールバンクをコントロール部にロックしたままにします。機能している間、ボタンが点灯します。

デバイスロックをオフにするには、再度Device Lockボタンを押します。Device Lockボタンがオンの状態で新しいデバイスを選択すると、新しく選択されたデバイスにコントロールがロックされます。



## トランスポート機能

下図のボタンは、Ableton Liveで演奏や録音をする際に重要な機能を果たします。



**再生** - ボタンを押すと、再生が開始します。

**停止** - ボタンを押すと、再生が停止します。

**録音** - セッションモード中にこのボタンを押すと、セッション録音が始まります。演奏を新しいクリップに録音したり、既存のクリップにオーバーダブすることができます。

**ループ** - Abletonのループスイッチをトリガーします。

# Cubaseとの連携

## セットアップ

Cubase 12以降には、Launchkey [MK3]スクリプトがプリインストールされています。LaunchkeyをCubaseで使用するには、Cubase 12以降が必要です。Cubaseは、接続したLaunchkey [MK3]を自動的に検出します。Launchkeyのデフォルトは、以下の通りです。

- パッドモード – セッションモード
- ノブ – ボリューム (Launchkey 25/37) またはパン (Launchkey 49/61/88)
- フェーダー (Launchkey 49/61/88) – ボリューム

接続したLaunchkeyのモードとデータにすばやくアクセスできるように、以下を選択します。

Studio > Studio Setup... > MIDI Remote > 下のタブから[MIDI Remote]を選択

以下の画面が表示され、Launchkeyの各コントロールに何が割り当てられているかを確認できます。



## ノブモードとフェーダーモード(49/61/88鍵盤)

上の列のパッドで、ノブモードを選択します。Shiftを押しながら使用するモードのパッドを押します。

Launchkey 49/61/88でフェーダーを再び割り当てるには、Shiftを押しながらフェーダーボタンを押します。



ノブやフェーダーを動かすと、画面にパラメーター名と現在の値が一時的に表示されます。これらのモードは、いつでもノブやフェーダーに割り当てることができます。ただし、ノブとフェーダーの両方に同じモードを割り当てることはできません。

### デバイスモード

デバイスモードは、ノブまたはフェーダーとCubaseのトラッククイックコントロール(Track Quick Controls)をリンクさせて操作します。フェーダーをCubaseのトラッククイックコントロールに割り当てるには、Shiftを押しながらフェーダー1の下にある [Device] ボタンを押します。

### ボリュームモード

ボリュームモードは、Launchkeyのノブまたはフェーダーとリンクさせて選択したトラックバンクのボリュームをコントロールします。

### パンモード

パンモードは、Launchkeyのノブとリンクさせて選択したトラックバンクのパンをコントロールします。フェーダーとCubaseのパンモードは、リンクできません。

### センド(センドA/センドB)

[Sends] パッドを1回押すと、選択したトラックの最初のバンクのセンド(センドA)をノブでコントロールできます。センドモードの状態では [Sends] パッドを押すと、ノブのコントロールがCubaseのセンドAとセンドB間で切り替わります。

Shiftを押しながらフェーダー3または4の下にある [Send A] / [Send B] ボタンを押すと、フェーダーに各センドバンクが割り当てられます。

# パッドモード

## セッションモード

セッションモードでは、選択、録音アーム、ソロ、ミュートをコントロールできます。セッションモードには以下の2つのページがあります。

1. ページ1は、選択(上の列) およびアーム(下の列) の設定。
2. ページ2は、ミュート(上の列) およびソロ(下の列) の設定。

[Stop/Solo/Mute] パッドでページを移動できます。矢印ボタンの点灯で移動できるページが確認でき、画面にパッドモードが一時的に表示されます。

ページ1では、現在の8トラックのバンクがトラック色で点灯し、アームされたパッドは赤く点灯します。表示中のバンクが8トラック以下の場合、未使用トラックに該当するパッドは点灯しません。選択中のトラックのパッドは明るく点灯し、その他のトラックのパッドは薄暗く点灯します。アームが有効になっているトラックパッドは明るい赤に点灯します。

ページ2では、上の列のパッドがミュート、下の列のパッドがソロをコントロールします。ミュートまたはソロが有効のパッドは明るく点灯します。パッドは、Cubaseのソロ(赤) およびミュート(黄)と同じ色に点灯します。

## フェーダーボタン (Launchkey 49/61/88のみ)

[Arm/Select] ボタンを使い、フェーダーボタンをアームモードと選択モード間を切り替えます。

点灯していないフェーダーボタンは、そのフェーダーチャンネルにトラックが割り当てられていないことを示します。



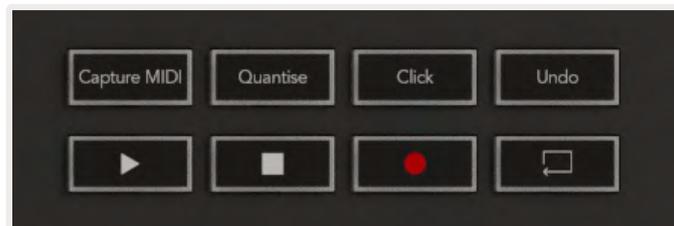
### セレクトモード

セレクトモードでは、ボタンがCubaseのトラックと同じ色で薄く点灯します。フェーダーボタンを押すと、現在のバンク内のトラックが選択されます。選択したトラックのボタンは、トラックの色で明るく点灯します。一度に選択できるのは、1トラックのみです。

### アームモード

アームモードでは、ボタンが薄い赤に点灯します。フェーダーボタンを押すと、現在のバンク内の該当するトラックがアームされ、ボタンが明るい赤に点灯します。複数のトラックに対し、一度にアームを設定できます。

## トランスポートコントロール

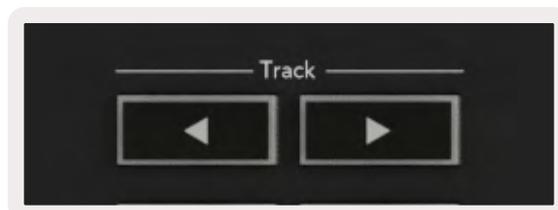


以下の表では、Launchkeyの各トランスポートコントロールに割り当てられている、Cubaseのトランスポートおよび編集機能を確認できます。

コントロール	動作
再生	再生開始
停止	再生停止
録音	Cubaseの録音ボタンのオンオフ
ループ	Cubaseのループ機能のオンオフ
Capture MIDI	Cubaseの「非録音時のMIDI入力データを記録 (Retrospective MIDI Record)」機能のオンオフ
Quantise	Cubaseのクオンタイズ機能のオンオフ
Click	Cubaseのメトロノームのオンオフ
Undo	Cubaseのアンドゥ機能のオンオフ
Shift + Undo	Shiftを押しながら[Undo] ボタンを押すと、Cubaseの「再実行 (Redo)」機能が実行されます。

### トラック ◀ ▶ ボタン

トラック◀▶ボタン(パッド、ノブ、フェーダー)を押すと、パッド、ノブ、フェーダーのコントロールが8トラックずつ切り替わります。上の列のパッドを押すまで新しいトラックは選択されません。Shiftを押しながらトラックボタンを押すと、バンクの選択が1トラックずつ切り替わります。



### >パッド(シーンローンチ)

このパッドは、Cubaseでは機能しません。



# スタンドアロン機能

## グリッド

グリッドは、2x8のベロシティセンシティブなパッドで構成されています。各パッドのスタンドアロン機能は、グリッドのそばにグレーのテキストラベルで表示されています。使い方は以下で説明しています。

### ドラムモード

Shiftを押さえたままドラムモードのパッド(下の列左から2番目)を押すと、ドラムモードに切り替わります。このモード中は、ベロシティセンシティブなパッドがC1~D#2のMIDIノートを出力し、青く点灯します。



## コードモード

### スケールコードモード

スケールコードモードでは、あらかじめ用意されているコードのバンクを使用できます。Shiftボタンを押したまま [Scale Chord] パッドを押すと、パッドの列にコードのバンクが割り当てられます。デフォルトではルートキーがCマイナーとなります。ルートキーを変更する方法は、[スケールモード](#)を参照してください。



各列の最初と最後のパッドが明るく点灯し、ルートコードの位置を示します。Page▲▼ボタンを押すと、コードのページが切り替わります。

最初のページでは、上の列のパッドが青に点灯し、3和音(トライアド)のパッドとして機能します。下の列のパッドは7ths(セブンス)となり、濃い青に点灯します。▼ボタンを押すと上の列が9ths(ナインス)となり、パッドが紫に点灯します。下の列は6/9ths(シックスナインス)となり、パッドがピンクに点灯します。



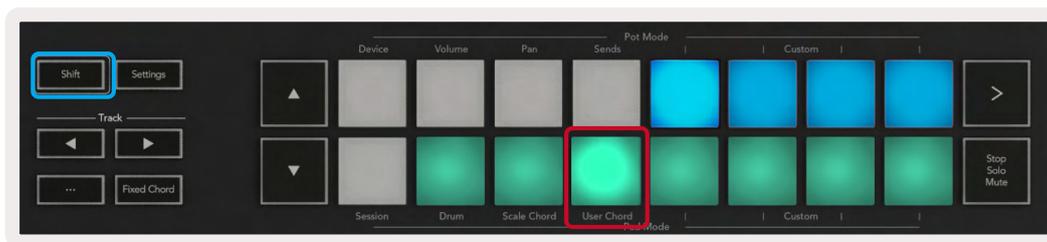
このモードでは、パッドを押すと緑に点灯し、指を離すと元の色に戻ります。

コードのオクターブを変更するには、Shiftを押さえたまま▲▼ボタンを押します。上下に3オクターブの移動が可能です。

## ユーザコードモード

最大6和音のコードを各パッドに割り当てられるモードです。登録したコードはLaunchkeyの内蔵メモリに保存されるため、電源をオフにしても消えることはありません。Launchkeyの電源を切ってから入れ直しても、そのコードを再び使用できます。

Shiftボタンを押さえたまま [User Chord] パッド(下の列左から4番目)を押すことでユーザーコードモードに切り替わります。



パッドにコードを割り当てるには、User Chordパッドを押しながら鍵盤でノートを登録していきます。各パッドには、最大6ノートまで割り当てることができます。User Chordパッドを使い、それぞれ鍵盤でノートを登録できるため、コードのすべての構成音の鍵盤を同時に押さえる必要はありません。

コードが割り当てられたパッドは、青く点灯します。パッドを押すとコードが演奏され、緑に点灯します。コードが割り当てられていないパッドは、点灯しません。



パッドからコードの割り当てを取り消すには、[Stop/Solo/Mute] ボタンを長押しします。コードが割り当てられているパッドが赤くなるため、それを押すと割り当てられたコードが取り消され、パッドが点灯しなくなります。



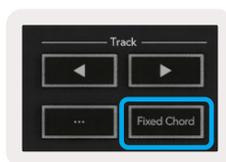
▲▼ ボタンを押すと、半音ずつ上下に12の範囲でトランスポーズすることができます。このときLCD画面に変更値が表示されます。



## 固定コード

固定コードではコードを演奏し、他の鍵盤を押すことでそれをトランスポーズすることができます。

コードを設定するには、[Fixed Chord] ボタンを押さえたまま、コードに含めたい鍵盤を押して離します。これでコードが保存されます。



このときLaunchkeyは、コードの構成音の一番低いノートではなく、最初に入力されたノートをコードの「ルート音」として認識します。



Fixed Chordボタンを押さえたままC、E、Gの順番に鍵盤を押して離します(Cメジャーコード)。本体がこれを「固定コード」として記録します。最後にFixed Chordボタンから指を離します。

これにより、どの鍵盤を押してもメジャーコードが鳴るようになります。例えばFを押すとFメジャーコード(下図参照)が演奏され、Abを押せばAbメジャーコードが演奏されます。



# スケールモード

鍵盤またはパッド（インストゥルメントモード時）を演奏する際、選択したスケールのノートだけが鳴るモードです。Scaleボタンを押すとボタンが点灯し、Scaleモードが有効になります。

LCD画面にはアクティブなスケール（デフォルトはCマイナー）が表示されます。

スケールは、Scale設定で変更できます。Shiftボタンを押しながらScaleボタンを押すと、Scaleボタンが点滅し、Scale設定が有効になります。

ルート音を変更するには、ルートに設定したい鍵盤を押します（黒鍵はシャープ#で表記されます）。パッドでスケールの種類を選択します。以下の図は、Scale設定モード時の様子です。



下の列のパッドでスケールを選択します。選択したスケール名がLCD画面に表示されます。選択できるスケールは以下の通りです（パッドの左から右の順）。

1. マイナー
2. メジャー
3. ドリアン
4. ミクソリディアン
5. フリュギア
6. ハーモニックマイナー
7. マイナーペンタトニック
8. メジャーペンタトニック

スケール設定モードを解除するには、Scaleボタンまたはその他のボタンを押します。10秒以上操作が行われないとスケール設定モードが自動的に解除され、直前の状態に戻ります。

# カスタムモード

Novation Componentsを使用すると、Launchkeyのノブやパッド、フェーダー（49/61/88鍵盤モデルのみ）でカスタムメッセージを送信できるようになります。これは、カスタムモードと呼ばれる設定です。カスタムモードは、Shiftを押したまま [Custom] パッドまたは [Custom] フェーダーボタンを押すことで有効にできます。Launchkeyがスタンドアロンで動作中は、デバイス、ボリューム、パン、センド、セッションモードは利用できません。



Componentsを使用するには、WebMIDI対応ブラウザ（Google Chrome、EdgeまたはOperaを推奨）を使って [components.novationmusic.com](https://components.novationmusic.com) にアクセスするか、Novationのアカウントページから、Componentsのスタンドアロンバージョンをダウンロードしてください。

## パッド

Launchkeyには、4つのカスタムパッドモードがあります。これらのモードにアクセスするには、Shiftボタンを押したまま（Pad Mode）の4つの [Custom] パッドのいずれかを押します。Componentsを使用すると、パッドにMIDIノートやプログラムチェンジメッセージ、CCメッセージを設定でき送信が可能になります。

Launchkeyは、デフォルトで4つのカスタムパッドモードが設定されています。デフォルトのパッドモードは、左から右の順に、以下の機能となっています。

- **マイナースケール：** 各パッドが2オクターブにわたるCマイナースケールのノートとなります。
- **オルタナティブドラム：** ドラム演奏用のドラムモードレイアウトに代わる機能です。
- **CCスイッチ：** モーメンタリ列とトグル列を持つMIDIマッピング用のCCスイッチのセクションとなります。
- **プログラム0-15：** プリセット選択の最初の16プログラムチェンジ。

## ノブ

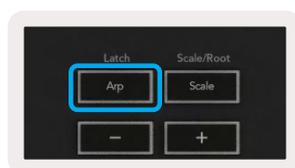
Launchkeyには、4つのカスタムノブモードがあります。これらのモードにアクセスするには、Shiftボタンを押したまま (Pod Mode) の4つの [Custom] パッドのいずれかを押します。**Components**を使用すると、ノブに任意のCC番号を設定でき送信が可能になります。

## フェーダー (Launchkey 49/61/88のみ)

Launchkeyには、4つのカスタムフェーダーモードがあります。これらのモードにアクセスするには、Shiftボタンを押したままフェーダーボタン (Fader Mode) の4つの [Custom] ボタンのいずれかを押します。**Components**を使用すると、フェーダーに任意のCC番号を設定でき送信が可能になります。

## アルペジエーター

Launchkeyの左側の [Arp] ボタンを押すとアルペジエーターが有効になり、取得したコード情報からアルペジオが生成されます。つまり、コードを構成する各ノートを次々に演奏します。鍵盤が押されている間、**アルペジオレート**で指定されているリズム値でアルペジエーターが適用されます。



Launchkeyのアルペジエーターは、簡単に面白いメロディーや進行が見つかる素晴らしい手段です。

## アルペジエーターのノブによるコントロール

Shiftボタンを押さえたままロータリーノブを動かすと、アルペジオを変化させることができます。



**Tempo (テンポ)** – アルペジオレートに対するアルペジオの速さを調整します。Launchkeyをスタンドアロンコントローラーとして使用する場合、ノブの調整範囲は60BPMから187BPMになります。ただし、Ableton Liveと同期している場合は、ノブの操作は無効になります。

**Swing (スウィング)** – 各ノートのタイミングを遅らせる度合を設定することで、リズムにスウィングが適用されます。アルペジエーターのスウィングを変更するには、[Arp] ボタンを押さえたままSwingノブを回します。デフォルト (中心位置) ではスウィングが0% (スウィングなし) に設定されており、一番右に回すと80% (スウィングが多くかかった状態)、一番左に回すと-80% (マイナス方向のスウィングが多くかかった状態) となります。マイナス値の場合、各ノートが遅れる代わりに速くなります。

**Gate (ゲート)** – ノブを調整することでMIDIノートの長さを変更し、よりスタッカートが効いたアルペジオや、レガートの効いたより滑らかなアルペジオを生成します。ノブの調整範囲はノート間の隙間を0~200%の間で設定できます。スウィングが適用されているノートの場合、両ノートが同じゲート長を保ちます。

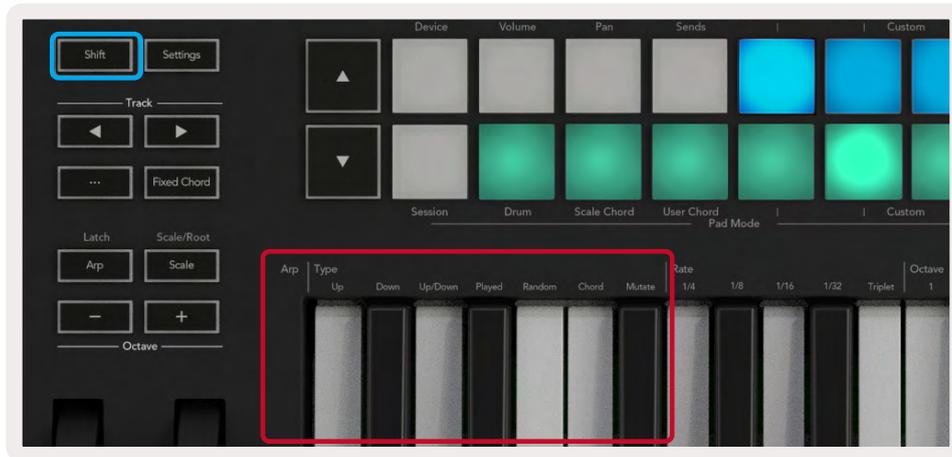
**Mutate (ミューテート)** – アルペジオモードで [Mutate] を選択した後、Shiftボタンを押さえたままこのノブを回すことで、アルペジオにバリエーションが加わります。ノブを回すごとに、新しい「ミューテート (変化)」が起こります。ノブの回転を止めるとノートが設定され、リピートが始まります。

**Deviate (逸脱)** – アルペジオリズムで [Deviate] を選択した後にこのノブを回すことで、リズムのバリエーションが生成されます。ノブを回すごとに異なるパターンの休符が生成されます。

これらのノブは、アルペジオコントロールロックが有効な状態にもアルペジオ機能をコントロールします。

## アルペジオモード

アルペジエーターをオンにすると、7つあるアルペジエータータイプのいずれかが選択され、それぞれ異なるノートの順番でアルペジオが生成されます。アルペジオタイプを変更するには、Shiftボタンを押さえたまま使用するモードに該当する鍵盤を押します。



**Up-** ノートが昇順に演奏されます (音程が下から上の順)。ノートを追加するとシーケンス内のノート数は増えますが、演奏は昇順のままとなります。例えば、最初のノートのE3を押さえたままC3とG3を追加した場合、C3、E3、G3の順番にノートが演奏されるアルペジオが生成されます。

**Down-** Upモードと同じ要領で、ノートが降順に演奏されます (例: G3、E3、C3の順番)。

**Up/Down-** ノートが昇順に演奏され一番高い音程のノートに達した後、一番低い音程のノートに向かって下降します。一番低いノートが一度演奏されるとアルペジオが再び上昇し、一番低いノートに達する前に停止します。つまり、パターンが繰り返される際、一番低いノートは一度しか演奏されません。

**Played-** 演奏された順番でノートが繰り返し演奏されます。

**Random-** コードに含まれるノートの順番が無制限にランダム化されます。

**Chord-** 全てのノートがリズムステップ (アルペジオレートを参照) ごとに演奏されます。高速なコードを簡単に演奏できる機能です。

**Mutate-** このモードでは、[Mutate] ノブを回すことで独自のノートが生成され、アルペジオに追加されます。このノブを回すと意外な方法でアルペジオに変化を加えることができるため大変便利です。ノブを左に回すとソフトな変化を、右に回すと激しい変化をもたらします。つまり、左に25%回すとアルペジオに微妙な変化が加わり、右に99%回すと全く思いがけない効果もたらされます。満足できるサウンドが生成されたらノブの回転を止めるとノートがリピートを開始します。

## アルペジオレート

これらのオプションで、アルペジオが適用されたノートの速度を設定できます。各ノートは、直前のノートが演奏されるとすぐに演奏されるため、より短いレート（例：1/32）は、長いレート（例：1/4）よりも速くアルペジオを演奏します。

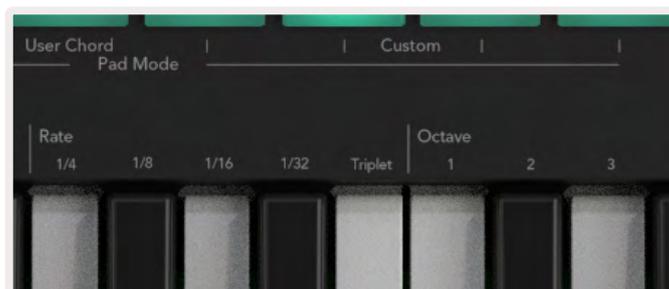
各レートオプションは、一般的な音符の定義と共通です（4分音符=1/4、8分音符=1/8、16分音符=1/16、32分音符=1/32）。アルペジオレートを変更するには、[Arp] ボタンを押さえたまま、[1/4]、[1/8]、[1/16]、[1/32] 下の鍵盤を押します。

さらに [Triplet] 下の鍵盤を押すことで、三連符のオンオフを切り替えられ、アルペジオノートが4分音符、8分音符、16分音符、32分音符の三連符にそれぞれ変化します。



## アルペジオオクターブ

これらの4つの鍵盤では、アルペジオが繰り返すオクターブ数を指定します。変更するには、[Arp] ボタンを押さえたまま [1]、[2]、[3]、[4] 下の鍵盤を押します。2以上のオクターブを選択すると、より高いオクターブでアルペジオが繰り返されます。例えば、1オクターブに設定しているときにC3、E3、G3だったアルペジオは、2オクターブに設定するとC3、E3、G3、C4、E4、G4となります。



## アルペジオリズム

アルペジオリズムでは、アルペジオのパターンに休符(無音のステップ)を追加することでバリエーションがより広がります。Arpボタンを押さえたまま次のいずれかの鍵盤を押します。

**0** - 3つのリズムパターンのオプションを示します。

- **0** - 通常のアルペジエーター設定であり、選択されているアルペジオレートすべての区分にノートを配置します。
- **OXO** (音符 - 休符 - 音符) - ノートの各ペア間に休符を追加します。
- **OXXO** (音符 - 休符 - 休符 - 音符) - このパターンは、ノートの各ペア間に2つの休符を追加します。

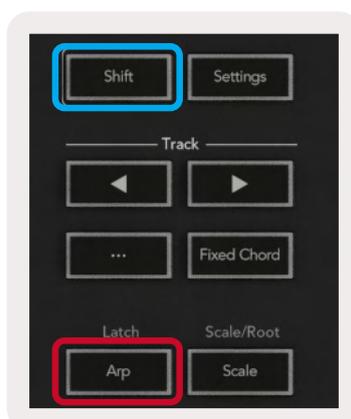
**Random** - ランダムな長さに対してランダムな休符を生成します。各ステップは、50%の確率で音符か休符のいずれかになります。休符の場合は、ノートはスキップされず無音になり、次のステップに移動します。

**Deviate** - 最もユニークなアルペジオリズムであり、多くのノートのバリエーションを生成します。[Deviate] のロータリーノブを回すごとに異なる休符パターンを生成します。

## ラッチ

ラッチ機能を使用すれば、鍵盤を押さえずともアルペジエーターを使用できます。同時に押した複数のノートはアルペジエーターのラッチの対象となり、新しいアルペジオパターンを形成します。ラッチされると、鍵盤を押さえたままの状態として認識され、アルペジエーターが演奏されます。新しい鍵盤を押すと直前のアルペジオが削除され、新しいアルペジオが形成されます。

Shiftボタンを押さえたままArpボタンを押すことでラッチを行えます。



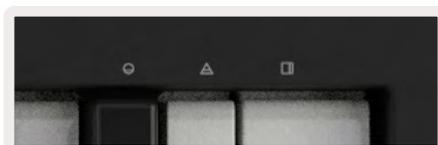
## アルペジオコントロールロック

[Arp] ボタンを長押しすると、アルペジオコントロールロックが有効になります。アルペジオコントロールロックモードがオンの場合には、Shiftを押さなくてもノブやパッドのアルペジオコントロールに直接アクセスできます。片手だけでアルペジエーターを演奏したい場合に便利な機能です。

アルペジオコントロールロックモードがオンのときは画面にステータスが表示され、[Arp] ボタンが点滅します。[Arp] ボタンを再度押しすと、アルペジオコントロールロックがオフになります。

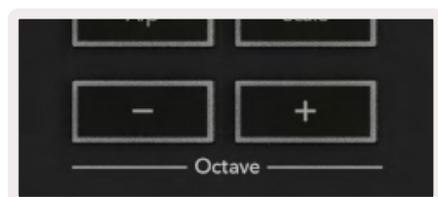


下図のアイコンは、今後Launchkeyに新たな機能が追加されたときのために用意されています（ページ「ストラムモード」参照43）。ぜひ今後のファームウェア情報にご期待ください。さらなる新機能が搭載される予定です。



## Octaveボタン

オクターブボタンを押すと、キーボードのオクターブが1ずつ上下します。使用できるオクターブの範囲はC-2～C8となっており、Shiftを押さえたままオクターブボタンを押すことで、キーボードを半音単位でトランスポーズできます。



キーボードのオクターブを0にリセットするには、Octaveの+と-ボタンを同時に押します。キーボードのトランスポーズを0にリセットするには、Shiftを押さえながらOctaveの+と-ボタンを同時に押します。

# 設定

[Settings] ボタンを押すと画面上に設定メニューが表示されます。シーン ▲▼ ボタンで設定リストをスクロールできます。設定の値を調整するには、パッドまたはトラック ◀▶ ボタンを使用します。設定できる項目は以下の通りです。

項目	説明	値の範囲	デフォルト
Keys MIDI Channel	鍵盤のMIDIチャンネルを設定します。	1~16	1
Chords MIDI Channel	スケールコードおよびユーザーコードのMIDIチャンネルを設定します。	1~16	2
Drums MIDI Channel	ドラムモードのMIDIチャンネルを設定します。	1~16	10
Velocity Curve (Keys)	鍵盤のベロシティカーブを選択します。	Soft /Normal /Hard /Off	Normal
Velocity Curve (Pads)	パッドのベロシティカーブを選択します。	Soft /Normal /Hard /Off	Normal
Pad Aftertouch	アフタータッチのタイプを設定します。	Off /Channel /Poly	Poly
Pad AT Threshold	アフタータッチが有効化するスレッシュホールドを設定します。	Low /Medium /High	Normal
Pot Pick-up	ノブのピックアップのオンオフを切り替えます。	Off /On	Off
MIDI Clock Out	MIDIクロックアウトのオンオフを切り替えます。	Off /On	On
Brightness	パッドと画面の明るさを調整します。	1~16	9
Vegas Mode*	ベガスモード*のオンオフを切り替えます。	Off /On	On

\*ベガスモードとは、一定の時間操作が無い場合にパッドやフェーダーボタンに表示されるライトショーのことです。

## ポットピックアップ

ポットピックアップ機能は、Settingsメニューから有効にできます。機能が有効になると、Launchkey本体がノブやフェーダーのページのあらゆる状態を保存します。ノブやフェーダーは、保存した状態の位置に値が達したときにのみMIDIメッセージを出力します。これにより、パラメータ値の予期せぬジャンプを防ぐことができます。

ノブやフェーダーを動かしてから値が変更されない(ピックアップ値に達していない)間は、画面に保存された値が表示されます。

## ナビゲーションモード - ([...] ボタン)

[...] ボタンを押すとLaunchkeyがナビゲーションモードに切り替わり、サンプルやプリセットのブラウジングを簡単に行えます。ナビゲーションモードでは、下図の様にパッドが点灯します。左側の4つの青いパッドが左右上下のキーパッドとして配置され、コンピュータキーボードのカーソルコントロールキーとして動作します。緑のパッドは、コンピュータキーボードにおけるEnterキーの役割をします。これらのパッドを使用することで、DAWまたはソフトウェアプラグイン内のプリセットやサンプルのブラウジングや選択を行ったり、キーボードのカーソルキーや入力ボタンとして別の用途に使用したりすることができます。



## ストラムモード

ストラムモードは、アルペジエーターのコントロール機能です。ギターやハープなどの弦楽器や、人気の「オムニコード」スタイルの奏法から着想を得ており、モジュレーションホイールでアルペジオをストラム演奏できます。モジュレーションホイールを仮想的な弦として使用し、演奏できるモードです。

ストラムモードを有効にするには、アルペジオコントロールページで上の列の6番目のパッドを押します。このパッドを使い、ストラムモードのオンオフを切り替えます。オンのときパッドは緑に点灯し、オフのときパッドは薄い赤に点灯します。また、Shiftボタンを押しながら「Ø」アイコンの鍵盤を押しても、ストラムモードにアクセスできます。



ストラムモード有効時は、鍵盤で音程を押さえた状態でモジュレーションホイールを回すことで、そのコードを弦を弾くように演奏できます。ストラムモード中でもアルペジエーターの各機能を利用できますが、リズムページは動作しません。

## ストラムモードでのアルペジオコントロール

**Mode** – ノートが移動する方向や順番を、モジュレーションホイールで設定します。

**Up** – モジュレーションホイールを上に戻すと、ノートが昇順に演奏されます。

**Down** – モジュレーションホイールを上に戻すと、ノートが降順に演奏されます。

**Up/Down** – モジュレーションホイールを上に戻すと、ノートが昇順後降順で演奏されます。

**Played** – モジュレーションホイールを上に戻すと、ノートがアルペジエーターの再生順に演奏されます。

**Random** – モジュレーションホイールを上に戻すと、ノートがランダムに演奏されます。

**Chord** – モジュレーションホイールを上に戻すと、コードが演奏されます。コードシェープに最大4つの反転が適用されます。

**Mutate** – モジュレーションホイールを上に戻すと、ノートがアルペジエーターのミュートコントロールの設定に従います。

**Rate** – ストラム時の各ノートを鳴らす時間を長くすることができます。1/4が最も長い時間で、1/32が最も短い時間になります。

ノートのデュレーションは、[Gate] ノブで微調整できます。

**Octave** – ストラムモードにオクターブを追加し、モジュレーションホイールで演奏できるノートまたは仮想の弦の範囲を広げることができます。

**Mod Wheel** – 1オクターブに設定すると、モジュレーションホイールで演奏できる仮想の弦の範囲が1オクターブに設定されます。この値を大きくすると、仮想の弦の範囲が増え、演奏できる範囲も広がります。

**Latch** – 通常の動作と同様にアルペジエーターをラッチできます。鍵盤を押さえる必要はありません。

注意: ストラムモードでラッチがオンのときは、モジュレーションホイールでアルペジオが鳴り終わるまで、鍵盤を弾いてもノートは聞こえません。

# その他のDAWとの連携

Launchkeyは、LogicやReasonだけでなく、HUI(ヒューマンユーザーインターフェース)を使用することで様々なDAWの多目的MIDIコントローラーとして機能します。鍵盤から送信されるノートオンおよびノートオフメッセージに加え、[Novation Components](#)を使用することで、ノブ、フェーダー、パッドのそれぞれが任意のMIDIメッセージを送信するようカスタマイズできます。用途に合わせた本体の設定が可能です。

## Logic

Launchkeyは、Apple Logic Pro X内の多くの機能に対するコントローラーとして使用できます。[スタンドアロン機能](#)のセクションで説明されている動作は、Logic Pro Xでも同様に利用できます。さらに[カスタムモード](#)を使用すれば、必要に応じた設定変更が可能です。Logic Proに特化したLaunchkeyの機能については、以下で詳しく説明します。

## セットアップ

LaunchkeyをLogic Proと一緒に使用する場合は、以下の手順に従って必要なドライバをダウンロードしてください。

- [Novation Customer Portal](#)のリンクに[novationmusic.com](#)からアクセス
- Launchkey [MK3] を登録
- My Hardware > Launchkey [MK3] > Downloads/Drivers
- Logic Script Installerをダウンロードして実行

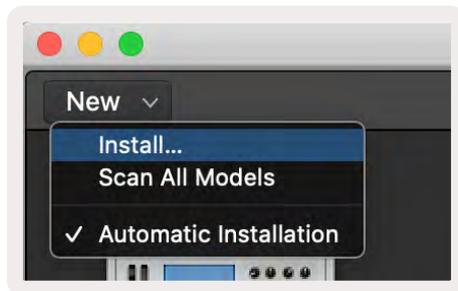
Logic Proとスクリプトをインストールしたら、LaunchkeyをMacのUSBポートに接続します。Logicを起動すると、Launchkeyが自動的に検出されます。LaunchkeyのShiftボタンを長押しすると、パッドが下図のように点灯します。



このように点灯しない場合は、以下の手順に沿って、手動でLaunchkeyをコントロールサーフェスとして選択してください。

Logic Pro X > Control Surfaces > Setup

設定ウィンドウが表示されたら、[New] メニューから [Install] を選択します。[Install] ウィンドウが開くので、[Novation Launchkey] までスクロールして [Add] をクリックします。



## セッションモード

セッションモードにアクセスするには、Shiftを押しながら[Session]パッド(下図参照)を押します。セッションモードでは、Logicトラックの録音やミュート、ソロを行えます。



**録音／ミュートモード** - 上の列のパッドにて、任意のトラックの録音アームを有効にします。アームが有効な場合、パッドが赤く点灯します。下の列はトラックのミュートを切り替え、ミュートが有効な場合、パッドが黄色に点灯します。パッドが表すトラックにはセンドトラックも含まれますが、上の列のパッドはセンド(バス)では点灯しません。



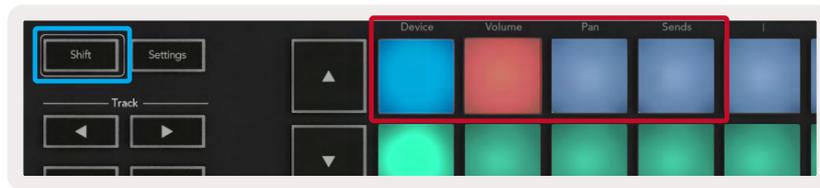
赤いパッドを押すとそのトラックの録音がアーム状態となり、より明るく点灯します。トラックをミュートすると、そのトラックのパッドがより明るく点灯します。

**録音／ソロモード** - 上の列のパッドは上記と同様に任意のトラックの録音アームを切り替えます。下の列はトラックのソロを切り替えます(青く点灯)。トラックをソロにすると、そのトラックのパッドがより明るい青になります。



上記2つのモードは、[Stop/Solo/Mute] ボタンを押して切り替えます。LaunchkeyをLogic Proで使用する場合、[Stop/Solo/Mute] ボタンはSoloモードとMuteモードの切り替えのみで、Stopモードはありません。トラックの停止は **停止ボタン**で行います。

## ノブ



**デバイスモード** - ノブをパラメータまたは選択中のトラック上のデバイスに対するスマートコントロールとして機能させます。インストゥルメントトラックの場合は、インストゥルメントのパラメータ列となります。ノブをデバイスモードに切り替えるには、Shiftボタンを押さえたままDeviceのフェーダーボタン(上の列一番左)を押します。これにより、ノブを動かすと、変更が加わったデバイスパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。

下図は、「Classic Electric Piano」を含むトラックを示しています。この例では、Bell Volume、Treble、Drive など、様々な重要なパラメータをLaunchkeyの8つのノブでコントロールします。



**ボリュームモード** - ノブをセンドトラック(バス)を含むプロジェクト内のトラックのボリュームコントロールにリンクさせます。ノブを動かすと、変更が加わったデバイスパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。

**パンモード** - ノブでセンド(バス)を含む任意のトラックのパンをコントロールします。ノブを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。

**センドモード** - ノブでセンドをコントロールします。ノブを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。

注意(49/61/88鍵盤モデルのみ) : ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。ノブにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのフェーダーボタンが赤く点灯し、この状態でフェーダーボタンを押してもフェーダーをそのモードに割り当てることはできません。

## フェーダー (Launchkey 49/61/88のみ)

- **デバイスモード** - フェーダーをパラメータまたは選択中のトラック上のデバイスに対するスマートコントロールとして機能させます(ナビゲーションを参照)。インストゥルメントトラックの場合は、インストゥルメントのパラメータ列となります。フェーダーをデバイスモードに切り替えるには、Shiftボタンを押さえたまま [Device] フェーダーボタン(一番左)を押します。これにより、フェーダーを動かすと、変更が加わったデバイスパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。
- **ボリュームモード** - フェーダーをセンド(バストラック)を含むプロジェクト内のトラックのボリュームコントロールにリンクさせます。フェーダーを動かすと、変更が加わったデバイスパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。
- **センドモード** - フェーダーでセンドをコントロールします。フェーダーを動かすと、変更が加わったパラメータと現在の値がしばらく画面に表示されます。

注意:ノブとフェーダーの両方へ同時にモードを割り当てることはできません。ノブにすでにモードがマッピングされている場合、Shiftを押している間それぞれのフェーダーボタンが赤く点灯し、この状態でフェーダーボタンを押してもフェーダーをそのモードに割り当てることができません。

## Arm/Select (アーム/選択) (Launchkey 49/61/88のみ)

[Arm/ Select] ボタンは、8つのトラックボタンの機能をトラックの録音アームの有効化またはトラック選択に設定します。録音アームを設定した場合、トラックの録音アームが有効なトラック下のボタンが赤く点灯し、無効なトラックは薄暗い赤に点灯します。点灯していないボタンは、フェーダーにトラックが関連付けられていないことを示します。

[Select]に設定されている場合ボタンが白く点灯し、選択されているトラックは明るく、選択されていないトラックは暗く点灯します。フェーダーボタンを押すと、そのトラックが選択されます。

## トランスポート機能

下図のボタンは、Logic Proで演奏や録音をする際に重要な機能を果たします。



- **Capture MIDI** - このボタンを押すと、Logicの「録音結果を取り込む」機能が有効化されます。
- **Click** - メトロノームのクリックのオンオフを切り替えます。
- **Undo** - アンドゥ機能を実行します。
- **録音** - 録音を開始します。
- **再生および停止** - トラックの再生をコントロールします。
- **ループ** - ループ再生(サイクルモード)のオンオフを切り替えます。

## ナビゲーション

◀および▶トラックボタンで、選択中のトラック間をナビゲートできます。セッションモードでは、選択中のトラックのパッドが選択されていないトラックよりも明るい赤に点灯し、デバイスモードでは、選択されたトラックに応じてスマートコントロールが変化します。



# Reason

Launchkeyは、Propellerhead Reason内の多くの機能に対するコントローラーとして使用できます。[スタンドアロン機能](#)の章で説明されている機能は、Reasonでも同様に動作します。さらに[カスタムモード](#)を使用すれば、必要に応じた設定変更が可能です。Reasonに特化したLaunchkeyの機能については、以下で詳しく説明します。

## セットアップ

LaunchkeyをReasonと一緒に使用する場合は、以下の手順に従って必要なスクリプトをダウンロードしてください。

- [Novation Customer Portal](#)のリンクにnovationmusic.comからアクセス
- Launchkey [MK3] を登録
- My Hardware > Launchkey [MK3] > Downloads/Drivers
- Reason Script Installerをダウンロードして実行

Reasonとスクリプトをインストールしたら、LaunchkeyをMacまたはWindowsのUSBポートに接続します。Launchkeyが自動的に検出され、キーボード&コントローラーウィンドウが表示されます。表示されない場合は、[Reason > Preferences > Control] の順番で開くことができます。Novation Launchkey本体の [Use with Reason] がチェックされていることを確認してください。ウィンドウを閉じます。LaunchkeyのShiftボタンを長押しすると、パッドが下図のように点灯します。



## トランスポートコントロール

- **Quantise** -クオンタイズのオンオフを切り替え、受信されたMIDIにクオンタイズを適用します。
- **Click** - メトロノームのクリックのオンオフを切り替えます。
- **Undo** - アンドゥ機能を実行します。
- **再生と停止** - トラックの再生をコントロールします。
- **録音** - 録音を開始します。
- **ループ** - ループ再生(サイクルモード)のオンオフを切り替えます。

## ロータリーノブ

Reasonインストゥルメントが選択されている場合、Launchkeyの8つのノブが主要なパラメータをコントロールするよう自動的に設定されます。ノブがコントロールするパラメータは、インストゥルメントによって異なります。例えばKong Drum Designerでは、Launchkeyのノブは左から右の順に、Pitch、Decay、Bus FX、Aux 1、Aux 2、Tone、Pan、Levelにマッピングされます。

## パッドのセッションモード

Reasonインストゥルメントが選択され、パッドが (Shiftを押さえたままSessionパッドを押して) セッションモードに設定されている場合、Launchkeyの16個のパッドが主要なデバイス設定をコントロールするよう自動的に設定されます。例えばGrain Sample Manipulatorでは、パッドは左から右の順に、Effects On、Phaser On、Distortion On、EQ On、Delay On、Reverb On、Compression On、Key Mode setting (Poly/Retrig/Legatoを切り替え)、Porta (Off/On/Autoを切り替え)、Motion、Grain Type Select、Oscillator On/ Off、Sample to Filter、Osc to Filterにマッピングされます。

## ナビゲーション

◀および▶矢印ボタンで、トラック間を移動できます。◀ボタンを押すと上のトラックが選択され、▶ボタンを押すと、下のトラックが選択されます。これにより、新しく選択したReasonトラックも自動的にアームされます。

## プリセットのブラウズ

▲および▼ボタンで、Reasonインストゥルメントのプリセットをスクロールできます。



# HUIとの連携 (Pro Tools、Cubase、Studio Oneなど)

「HUI」(ヒューマンユーザーインターフェースプロトコル)は、LaunchkeyをMackie HUIデバイスのように動作させることができ、HUI対応DAWとの連携を可能にする機能です。Steinberg Cubase、Avid Pro Tools、PreSonus Studio OneなどのDAWが、HUIに対応しています。スタンドアロン機能の章で説明されている機能は、HUI対応DAWでも同様に動作します。以下のページでは、LaunchkeyがHUIを介してコントロールサーフェスとして動作する際の機能について説明しています。

## セットアップ

### Pro Tools

LaunchkeyをPro Toolsで設定するには、[Setup] > [Peripherals] に移動します。[MIDI controllers] タブを選択し、[Type] を [HUI] に、[Receive From] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW Out] に、[Send To] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW In] に、[# チャンネル] を [8] に設定します。

### Studio One

LaunchkeyをStudio oneで設定するには、[Preferences] > [External Devices] を選択し、[Add...]をクリックします。次に、リストから [Mackie HUI] を選択し、[Receive From] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW Out] に、[Send To] を [Launchkey MK3 (#) LKMK3 DAW In] に設定します。

## パッドのセッションモード

Shiftを押さえたまま [Session] パッド (下の列一番左) を押すとセッションモードに切り替わり、Launchkeyの16個のパッドを使ってトラックのミュートやソロができるようになります。ここでは上の列が青色に点灯し、下の列は黄色に点灯します。パッドは、ソロやミュートが無効のときは薄暗く、有効にすると明るく点灯します。

## ナビゲーション

◀および▶トラックボタンは、選択されているトラック間を移動します。一度に8つのトラックバンクを移動するには、Shiftボタンを押さえたまま◀または▶トラックボタンを押します。

## ミキサーのコントロール

ノブとフェーダー (49/61/88鍵盤モデルのみ) で、トラックバンクのミキサーをコントロールできます。Shiftを押したままVolume、Pan、Send/パンボタンまたはフェーダーボタンのいずれかを押し、Launchkeyの8つのノブまたはフェーダーで、トラックの音量、パン、Send A/Bをコントロールできます。(Shiftを押したまま) Sendパッドを繰り返し押すと、Send AとBが切り替わります。

## フェーダーおよびフェーダーボタン (Launchkey 49/61/88のみ)

フェーダーは常に、選択されているトラックのバンクのトラック音量をコントロールします。

[Arm/Select] ボタンで、トラックのアーム (デフォルト) とトラック選択を切り替えます。フェーダーボタンは、トラック選択モードでは薄い白に、アームモードでは赤く点灯します。トラックが選択され有効になると、フェーダーボタンが明るく点灯します。

## トランスポートボタン

HUIと一緒に使用することで、トランスポートボタンが以下のように機能します。

- **再生** - トラックの再生が開始します。
- **停止** - トラックの再生が停止します。
- **Undo** - アンドゥ機能を実行します。
- **録音** - 録音アーム機能を実行します。
- **ループ** - ループ再生 (サイクルモード) のオンオフを切り替えます。

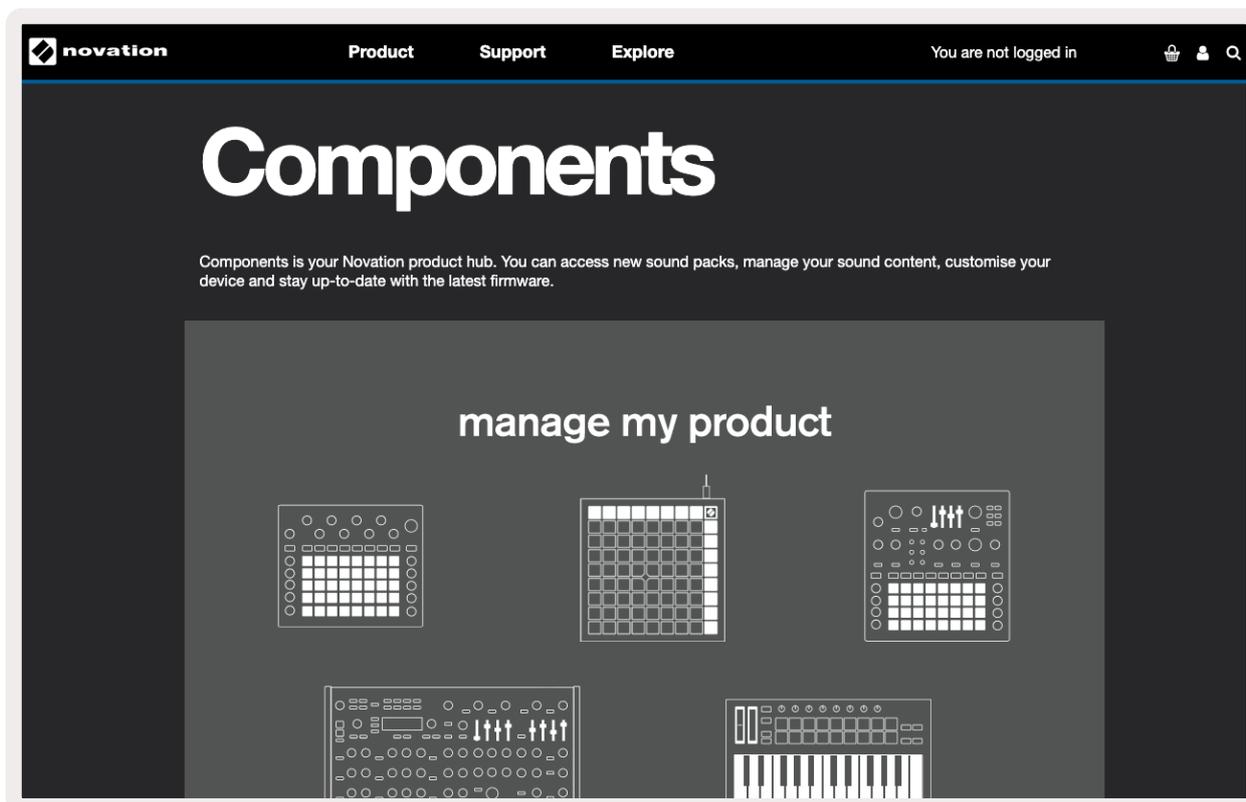
# 本体の特徴

## 重量および寸法

モデル	重量	高さ	幅	奥行
Launchkey 25	1.8kg	77mm (ノブを除いた場合 62mm)	463mm	258mm
Launchkey 37	2.7kg	77mm (ノブを除いた場合 62mm)	555mm	258mm
Launchkey 49	3.1kg	77mm (ノブを除いた場合 62mm)	789mm	258mm
Launchkey 61	3.5kg	77mm (ノブを除いた場合 62mm)	952mm	258mm
Launchkey 88	8.3kg	87mm (ノブを除いた場合 62mm)	1270mm	258mm

## カスタムモードおよびComponents

カスタムモードでは、コントロールエリアごとに独自のMIDIテンプレートを作成できます。テンプレートは、[Novation Components](#)で作成し、Launchkeyに送信できます。またComponentsでは、ファームウェアのアップデートや、Launchkeyのピッチ/モジュレーションホイールのキャリブレーション設定も可能です。



**警告:**

本製品を正常に動作させている場合にも、強力な静電放電 (ESD) の影響を受ける可能性があります。このような場合には、USB接続を一度解除し、再度接続することで再起動をお試しください。通常の動作が回復します。

## 商標

Novationの商標は Focusrite Audio Engineering Ltd.が所有しています。本マニュアルに記載されているその他すべてのブランド名、製品名、会社名、およびその他の商標登録または商標は、それぞれの所有者に帰属します。

## 免責事項

Novationは、本ガイドに記載されている情報が正確で完全であることを保証するために可能なすべての措置を講じています。いかなる場合でも、Novationは、本マニュアルまたは記載されている装置の使用に起因する装置、第三者または装置の所有者に対する損失または損害についていかなる責任も負いません。本書に記載されている情報は、事前の予告なしに変更することがあります。仕様および外観は、記載／表示されているものとは異なる場合があります。

## 著作権および法定通知

Novationは、Focusrite Audio Engineering Limitedの登録商標です。Launchkey MK3は、Focusrite Audio Engineering PLCの商標です。

2022 © Focusrite Audio Engineering Limited.無断転用禁止。

### Novation

Focusrite Audio Engineering Ltd.の一部門  
Windsor House, Turnpike Road  
Cressex Business Park, High Wycombe  
Buckinghamshire, HP12 3FX  
United Kingdom

電話: +44 1494 462246  
ファックス: +44 1494 459920  
メール: [sales@novationmusic.com](mailto:sales@novationmusic.com)  
ウェブサイト: [novationmusic.com](http://novationmusic.com)